

【連載】※月1連載 船釣りの作法

釣技
技食

其の二十二

三浦半島剣崎間口港出船の
マルイカ

ゼロテンションのアタリが分かるようになる秘訣。

オモリを着底させて仕掛けと道糸のテンションを抜いた状態。それがいわゆる「ゼロテンション」。バイオインパクトマルイカ82SS155は60号オモリを背負った状態で穂先だけが曲がる典型的なゼロテンロッド

「マルイカ釣りの魅力は繊細なアタリ。自分にしか分からないアタリを取って掛けるのが、何より楽しいですよ」
超絶技巧・スナイパー釣法を確立させた鈴木孝さんはマルイカの名手でもある。その解説はときに難解ながら、抽出されるエッセンスは濃く、即効性がある。

たとえばマルイカのゼロテンション釣法におけるコツ。
スツテはルアーである。ルアーは動いてこそアピールでき、止まっていると見切られる。ゆえに、ゼロテンションで止める時間は短いほうがいい。

鈴木さんのゼロテンションは想像以上に止めている時間が短く、わずか2〜3秒か、それ以下。

同じく、ルアーであるスツテを同じ場所に長時間留めても意味はなく、イカの視界から遠ざけ、再び目の前に落とすことがタタキ以上に重要な誘いであると考える鈴木さんは、巻き落とし

落ち込みのサワリに合わせのタイミングを遅らせて多点掛けを狙うと……

を頻繁に行う。その頻度は驚くほど多く、1〜2回たいて止めて合わせたら巻き上げて落とす。つまり、タタキ+止めと、ほとんど変わらない回数で巻き落とし。

要するに、海中にあるスツテが止まるのは、ゼロテンションの2〜3秒だけ。そのわずかな時間でアタリを判別して合わせ、ときにタイミングをずらして多点掛けを狙う。



▲スツテは40ミリサイズのクリアボディベース

▼小さなスルメイカ、通称ムギイカと、やや大きめのニセイイカに近いサイズも釣れた

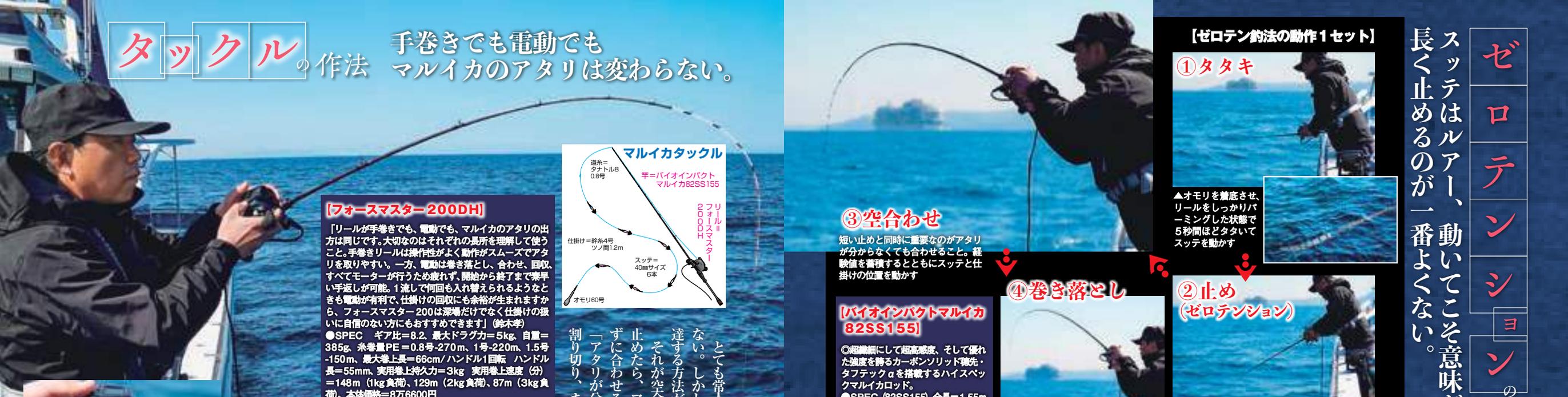


○鈴木孝 スナイパー釣法を構築、カワハギ釣りの名手として知られる。マルイカ、フグ、アナゴ、クロダイなど小技と工夫を駆使する釣りに精通する。



タックル

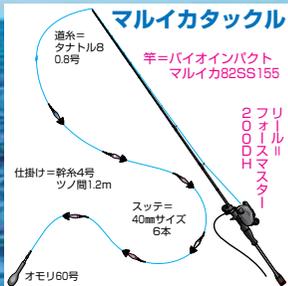
の作法 手巻きでも電動でも マルイカのアタリは変わらない。



【フォースマスター200DH】

「リールが手巻きでも、電動でも、マルイカのアタリの出方は同じです。大切なのはそれぞれの長所を理解して使うこと。手巻きリールは操作性がよく動作がスムーズでアタリを取りやすい。一方、電動は巻き落とし、合わせ、回収すべてモーターが行うため疲れず、開始から終了まで楽な手返しが可能。1流して何回も入れ替えられるようなときも電動が有利で、仕掛けの回収にも余裕が生まれますから、フォースマスター200は深場だけでなく仕掛けの扱いに自信のない方にもおすすめできます」(鈴木孝)

●SPEC ギア比=8.2、最大ドラッグ力=5kg、自重=385g、糸巻きPE=0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m、最大巻上長=66cm/ハンドル1回転、ハンドル長=55mm、実用巻上持久力=3kg、実用巻上速度(分)=148m(1kg負荷)、129m(2kg負荷)、87m(3kg負荷)、本体価格=8万6600円



【鈴木孝のフォースマスター200マルイカ活用術】

▲ハンドル1回転60センチのハイギア仕様のため、合わせ時にハンドルによるアシストも楽でカンナの刺さりがいい、と鈴木孝さん

▲バイオインバクトマルイカのフロントトリガーとの相性も抜群

①タッチドライブは中高速20
竿で合わせ、ハンドルで巻いて乗りを確信したらタッチドライブで巻き上げる。鈴木孝さんは中高速を「20」に設定、巻き上げ加速を決めるモード設定はノーマルの「N」としている

②巻き落としはチョイ巻きで！
同時にハイスピードで5~10メートル巻き上げて落とし直す「巻き落とし」は「PICKUP」ボタンを押すだけでいい。速度は設定で「チョイ巻き」にセットしておく

食

の作法 マルイカの漬け
~酒のつまみに。香りと辛味はお好みで~



- 船では釣りに専念、帰宅後に作る絶品の漬け。ご飯もすすむが、酒もすすむ
- ①つけダレは酒1.5、しょう油1、ミリンまたはめんつゆ少々を煮切り、冷めないうちにユズコショウを適量
 - ②皮付きの鰯、ゲン、エンペラを細切りに。表面から切るといい
 - ③冷やしたつけ汁にマルイカの身を漬ける。鈴木さんは2時間ほど漬け込む
 - ④皿に盛り付け、辛味がほしいときにはユズコショウを付けるのがおすすめ



「船釣りの作法」動画公開中。
YouTube SHIMANO TV
公式チャンネルにてご覧いただけます。

ゼロテンションの作法

スツテはルアー、動いてこそ意味がある
長く止めるのが一番よくない。

【ゼロテン釣法の動作1セット】

①タタキ

▲オモリを簞底させ、リールをしっかりパッキングした状態で5秒間ほどタタいてスツテを動かす

②止め(ゼロテンション)

▲止めるのは2秒から長くても3秒ほど。このときの竿先の状態がカギになる。写真参照

③空合わせ

短い止めと同時に重要なのがアタリが分からなくても合わせること。経験値を蓄積するとともにスツテと仕掛けの位置を動かす

④巻き落とし

【バイオインバクトマルイカ82SS155】

◎超繊細にして超感度、そして優れた強度を誇るカーボンソリッド複層タフテックαを搭載するハイスベックマルイカロッド。

●SPEC (82SS155) 全長=1.55m、継数=2、仕舞寸法=119.7cm、自重=95g、オモリ負荷10~60号、カーボン含有率89.7%、本体価格=6万500円

▲鈴木さんが「オモリが10号軽くなる」と表現するほど操作性を高めるフロントトリガー

▲82SS155と73145にはタフテックα、深場ゼロテンに対応する82S160にはタフテック穂先が搭載されている

【理想のゼロテンションとは】

①完全に負荷が抜けた状態から、進糸の抵抗分ほんの少し曲がっているのが理想。これ以上曲がったら空合わせでリセットする

②これはオモリが簞底しているもののテンションがかかっているため、マルイカがスツテを抱いてもすぐ離してしまう

